

一般社団法人 大学英語教育学会 (JACET)

## 第 37 回 (2022 年度) 中部支部大会プログラム

The JACET 37th (2022) Chubu Chapter Annual Convention

大会テーマ

### 国際交流とこれからの大学英語教育

What can universities do to improve international cooperation?

Invited Speakers

Dr. Christiane Lütge

(ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン)

若林茂則先生(中央大学)

中川右也先生(三重大学)

米澤由香子先生(東北大学)

藤掛千絵先生(南山大学)

2022 年 6 月 4 日 (土)

開会時間: 午後 14 時 45 分

オンライン (Zoom による双方向同時配信) 開催

<http://www.jacet-chubu.org/>

# 一般社団法人大学英語教育学会（JACET）中部支部

## 第 37 回（2022 年度）中部支部大会プログラム

日時： 2022 年 6 月 4 日(土) 14 時 45 分～18 時 40 分

Zoom 開催（事前予約制）

参加費：JACET 会員・学生は無料、JACET 非会員は 1,000 円

参加方法：JACET 中部支部ホームページ (<http://www.jacet-chubu.org/>) より、事前に  
参加申し込みをお願いします（先着 300 名まで）。なお、QR コードは本プログラム最終  
ページに記載しています。

支部総会 14 時 30 分～14 時 40 分

開会挨拶 14 時 45 分～14 時 50 分 支部長 今井 隆夫（南山大学）

研究発表 1 14 時 50 分～15 時 20 分 司会 鎌倉 義士（愛知大学）

<やさしい日本語>への変換を基盤にした英文作成指導法

樋口 晶子（四日市大学）

研究発表 2 15 時 25 分～15 時 55 分 司会 大瀧 綾乃（静岡大学）

社会人と大学生の自律的英語学習実態に関する比較調査

加藤 あや美（桜花学園大学）

山田 敦子（桜花学園大学）

**シンポジウム・講演テーマ：プロジェクトベースの国際交流を通じた外国語教育**

シンポジウム 16 時 00 分～17 時 20 分

講師：若林 茂則（中央大学）

中川 右也（三重大学）

米澤 由香子（東北大学）

藤掛 千絵（南山大学）

コーディネーター：安達理恵（椋山女学園大学）

講演会 17 時 30 分～18 時 30 分 司会 安達理恵（椋山女学園大学）

演題：Digital Citizenship Education – Perspectives for Foreign Language Teaching

Christiane Lütge (Ludwig Maximilian University of Munich, Germany)

閉会挨拶 18 時 35 分～18 時 40 分 副支部長 安達理恵（椋山女学園大学）

## 発表概要

研究発表 1 14 時 50 分～15 時 20 分

<やさしい日本語>への変換を基盤にした英文作成指導法  
樋口 晶子 (四日市大学)

伝えたい内容を平易な日本語に変換する「和文和訳」を用いた英文作成の有効性は、学習者の日本語能力に依るところが大きい。そこで、その変換手段として「1 機能 1 形式・簡潔性」を条件とした <やさしい日本語> (日本に滞在する外国人への情報伝達を想定したわかりやすい日本語) (庵、2016) を導入し、2021 年に「和文和訳」を取り入れた英文作成指導の具体的手法「初級英文作成プログラム」を試作した。このプログラムを通じて、<やさしい日本語>を用いた初級レベル学習者の英文作成支援が可能であることがわかったが、いくつかの課題も明らかになった。そのうち、[1 機能 1 形式]を保てないという課題(日本語の準体助詞「の」など)に対する改善案を提案し、初級レベルの英語学習者の英語発信力をいっそう促す、学習者主体の英語教育の可能性を探りたい。  
※庵功雄(2016) 『やさしい日本語-多文化共生社会へ』。 岩波新書

研究発表 2 15 時 25 分～15 時 55 分

社会人と大学生の自律的英語学習実態に関する比較調査  
加藤 あや美 (桜花学園大学)  
山田 敦子 (桜花学園大学)

4 技能の重要性が謳われる中、本発表は、自律的な英語学習に関するアンケートを社会人 254 名、大学生 125 名に実施し、①伸ばしたいスキル、②学習時間、③学習内容の 3 点について回答を得た。どちらの学習者も 4 技能のうち Speaking を最も伸ばしたいとしながら、実際には社会人が Listening、大学生が Reading に多くの時間を費やしているとの回答であった。英語学習目的、学習意欲、習熟度等の要因および両者の差異から実社会で必要とされている英語力の一端が明らかとなった。また、英語の習熟度によっても回答結果が異なり、特に実践的に英語が活用できる社会人学習者の回答は、大学生のうちに身につけて欲しい学習方法への参考となるものであった。これにより、更なる実践的な大学英語教育が可能になると考える。

## シンポジウム・講演

### プロジェクトベースの国際交流を通じた外国語教育

コーディネーター：安達 理恵（梶山女学園大学）

16時00分～16時15分

若林 茂則（中央大学）

16時15分～16時30分

中川 右也（三重大学）

2020年度に開始した「日(に)本語を話さない高(こ)校生と話そうプ(P)ロジェクト:略称にこP」は、日本と海外の高校を繋いで、同年代の若者が少人数グループで英語を用いて話し合うことを中心とした教育プログラムです。2021年度には大学での取り組みを含め4つのペアで実施しました。このプログラムのために開発された Dialogbook というアプリを用いて、ペアの学校での情報共有、ルーブリックを用いた形成的評価、生徒と教員によるやりとりとその記録を行い、最終的には準備段階から最終的な振り返りまで、プログラム全体を通じた活動のデータ化が可能になっています。実際の取り組みの全容を若林が紹介し、その意義と小中高大への導入の可能性について中川が解説します。「実践的な取り組み」をはるかに超える「同世代と繰り返し英語でやりとりする体験」で、生徒たちがどう変わるかを含め、このようなプロジェクト型学習のもたらす可能性について、皆様と一緒に考えたいと思います。

#### 【講師紹介】

##### 若林茂則(わかばやし しげのり)

中央大学文学部教授・一般社団法人ことばのまなび工房代表理事。早稲田大学教育学部卒業後、8年間の三重県立高等学校教諭を経て、英国エセックス大学(1993年 MA Applied Linguistics)ケンブリッジ大学(MPhil English and Applied Linguistics および Ph.D.)。主な研究テーマは言語理論に基づく形態統語の第二言語習得および国際協働に基づく英語教育プログラム開発。開発プログラムは「海外との協働実践:ICT活用で海外の高校生とグループワーク」『英語教育』大修館書店 2022年2月号などで紹介している。

##### 中川右也(なかがわ ゆうや)

三重大学教育学部准教授。修士(英語教育学)修士(英語学)博士(教育学)(愛知教育大学・静岡大学)。小学校英語教育学会賞受賞(2021年)。文部科学省認証 英語教育推進リーダー。元中学・高校教師であったことから、教育に寄与することを目的に言語学や教育工学などの知見を基にした研究をおこなっている。『英語のしくみと教え方—こころ・ことば・学びの理論をもとにして』共著編(くろしお出版、2020年)、「認知言語学の知見を拠所とした教材・学習材の開発」『日本認知言語学会論文集』第21巻(2021)など。

国際共修(Intercultural Collaborative Learning)は、多様な文化・言語的背景からなる学生同士の意味ある交流に基づく協同学習を授業や課外活動に組み入れた教育実践を指す。東北大学で2000年代から展開されてきた国際共修は、全学教育を中心に2020年度には70科目となり、国内学生、留学生それぞれ約500名が履修するまでに発展した。さらに、2021年度より国際共修という学習リソースを国内連携大学間で共有し横展開を図る「ICL-Channels」事業(文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」採択)を開始し、日本の国際教育の推進に貢献しようとしている。

本研究集会における発表では、東北大学が実施してきた国際共修の取り組みについて制度的側面に焦点を当て概要紹介するとともに、ICL-Channelsの開始によりこれまでに見えてきた課題を報告することで、今後の日本の国際教育における国際共修プロジェクトの発展可能性について具体的な論点を得、参加者とともに議論することを目標とする。

#### 【講師紹介】

米澤 由香子(よねざわ ゆかこ)

名古屋大学文学研究科(2001年、心理学修士)、シェフィールド大学(英国)The School of Education(2005年、MA in Education Policy and Practice)、メルボルン大学(オーストラリア)The Melbourne Graduate School of Education(2017年、Ph.D. in Education)。主な研究テーマは大学教育国際化、大学国際化マネジメント。国際共修に関する書籍は、堀江未来・坂本利子・米澤由香子(2017)『多文化間共修:多様な文化背景をもつ大学生の学び合いを支援する』学文社、末松和子・秋庭裕子・米澤由香子(2019)『国際共修—文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ』東信堂がある。

16時45分～17時00分

藤掛 千絵(南山大学)

文科省「大学の世界展開力強化事業」として2018年度から始動した南山大学 NU-COIL プログラムでは、主に米国大学との連携において、留学前におけるオンライン協働学修を実施してきました。今回の発表では、コロナ禍で現地研修が中止されたノースジョージア大学短期留学プログラムのオンライン化(約2か月間)におけるプログラム構成詳細(2021年度実施)、学生がプログラムの前後で受検した Duolingo English Test 結果の分析と BEVI テスト(深層心理分析ツール)結果の分析、学生の最終レポートや事後インタビューにおけるコメントなどを紹介します。本学からは学生14名が参加し、ノースジョージア大学の学生と英語と日本語の両言語を用いながらオンラインでスピーチプロジェクト、ビデオ制作プロジェクトなどを行いました。

### 【講師紹介】

**藤掛 千絵(ふじかけ ちえ)**

南山大学国際センター特別任用講師として、COIL (Collaborative Online International Learning) の手法を用いた授業を担当し、短期留学プログラムの開発・実施、産官学連携プロジェクト型授業の企画・実施、国際交流プログラムの企画・運営、海外協定校との連携交渉、企業・団体におけるインターンシップ企画・実施、教育プログラムの効果検証などに携わっている。フルブライト語学アシスタントとして米国スクラントン大学にて日本語語学講師を務め、同大学にて MBA を修了。青山学院大学文学部教育学科(現 教育人間科学部教育学科)にて中学校・高等学校の教員免許(英語)取得。

17時00分～17時20分

全体議論

## 講演概要

17時30分～18時25分

### **Digital Citizenship Education – Perspectives for Foreign Language Teaching** **Christiane Lütge (Ludwig Maximilian University of Munich, Germany)**

#### **Abstract**

Digital Citizenship Education (DCE) has emerged as a supranational priority, as has been strongly affirmed through recommendations issued by the Council of Europe. This educational initiative seeks to empower younger citizens to participate actively and responsibly in a digital society and to foster their skills of using digital technologies effectively and critically.

In order to facilitate the implementation of DCE in schools and in curricula across Europe, subject-specific adaptations are required, which are still lacking. This would include a thorough adaptation of DCE principles and objectives into foreign language education (FLE) – a field at the heart of a unified vision of European and global education that involves the fostering of foreign language competencies needed for intercultural communication, mutual exchanges and civic action.

Against this backdrop, Dice-Lang, a three-year Erasmus+ project aims at modeling the specific perspectives of FLE into available European initiatives of DCE. In this presentation general objectives and practical implications will be addressed.

#### **Biodata**

Christiane Lütge is professor at the Ludwig-Maximilians-University of Munich (LMU) where she holds the Chair of Teaching English as a Foreign Language. She is also the director of the Munich Centre of Teacher Education. Her areas of expertise in research and teaching include digital literacy and literary learning, literature in the foreign language classroom, as well as Global Citizenship Education and transcultural learning in EFL. She is a co-editor of the volumes *The praxis of diversity* (Palgrave Macmillan 2020) and of *Digital Teaching and Learning: Perspectives for English Language Education* (Narr 2021). She has recently set up a third-party funded project on Digital Citizenship Education (DiCE.Lang) in collaboration with researchers from Ireland, Portugal, Italy and Latvia.



## 事務局からのお知らせ

☆ 当日、第1回中部支部総会（14時30分～14時40分）をオンラインにて行います。

2022年度支部大会参加申し込み

<https://bit.ly/3v0IGle>



参加申し込み期限：5月30日（月）正午

お問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：名古屋工業大学 吉川りさ研究室内

yoshikawa.lisa@nitech.ac.jp